

会長 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 06-6833-9227
事務局 〒577-0054 東大阪市高井田元町1-14-2 岡本 至弘 06-6788-2796
編集室 〒586-0039 河内長野市楠ヶ丘11-18 中川 良三 0721-65-0348
HomePage担当 〒577-0054 大阪市住之江区南港中3-3-31-520 坪井 仁志 06-6613-2836

令和6年11月(2024年) No.707

訃報

中村幸子さんが亡くなりました

我が OMC 会員で、京都にお住いの中村幸子さんが 10 月半ば過ぎに亡くなりました。孤独死だったようで、誰も最後をみとった人がいなく、警察からお子さん（関東在住）への連絡でようやく明るみに出たという、何か淋しい人生の終わり方で残念でなりません。中村さんは体調が思わしくなく、介護の方が週 3 回、お世話に来ておられ、どうやら、その時の介護の方が発見され警察へ、警察からお子さんへ連絡、そのお子さんから、OMC の宮崎紀代子さんや高瀬さんへお電話があって、ようやく中村さんの逝去が伝えられたという次第。



宮崎さんは 10 月 17 日、中村さんにメールをしたら、今首が痛いのでお風呂に入って体を温めているが、メールするのがつらいので午後になって電話をすると云って言って切れた。午後になって電話を待ったが掛かってこないで宮崎さんから電話やメールをしても音沙汰がなかったとか。

一方、高瀬辰雄さんは、中村さんへの書類を持って 20 日に彼女の住むマンションへ行ったが返事はなく、書類は郵便受けに入れて、帰ってきた、との話。どうもその時点でもう亡くなられていたのではないかと察せられます。

週明けに介護の方が発見し、公になったというわけで、中村さんはまさに「孤独死」だったのが何としてもやり切れません。葬儀も家族葬で、家族から知らせを受けた宮崎さんと高瀬さんが参列されましたが、淋しいものだったようです。

中村さんは実に良い作品を創っておられ、今後も期待しておりました。残念です。改めて、中村さんのご冥福をお祈りいたします。合掌

1 1 月例会のお知らせ

- 2 3 日（第 4 土曜・祭日）13 時より。担当世話人は早めに来てください。
- 予告・12 月例会は一週間早めで第 3 土曜日 21 日になっております。ご予約を

中村幸子さんを偲んで

高瀬辰雄

中村幸子さんが10月中旬、急逝されました。享年82。中村さんがビデオを始められたのは60代。どういうきっかけでビデオを始められたのか分かりませんが、京都アマチュア映像連盟の映写会に見に来られた折、クラブに入会（後に退会）し、本格的に作品づくりを始められた。東京アマチュア映像連盟の全国ビデオ映像コンテストのチャレンジ部門に「はいつてたんせ」という秋田のかまくらを描いた作品が入賞し、コンテスト応募に情熱を燃やされていました。特に丹波篠山の映像コンテストには毎年欠かさず、応募され、不登校生を描いた「もう大丈夫」と、嵐山の人力車の車夫をテーマに制作された作品が入賞、埼玉春日部のコンテストでは京都の特産、九条ネギ農家を取材された作品で入賞された。人物をテーマにインタビューを交えたドキュメンタリー作品を得意とされ、ナレーションは、かつて観光名所の語り部をされていたこともあって、こだわりをもって取り組まれていました。

撮影となると、遠方もいとわず、「もう大丈夫」では九州玄界灘に何度も取材に行き、主人公のその後を撮影するため3年前、再度九州大分に行かれた。ただその時、長年使われていたカメラが故障で動かなくなり、途中で撮影を断念。帰られて、すぐ新しいカメラを購入。あくる年、そのカメラを持って、東日本大震災の被災地、東北三陸海岸のその後を取材撮影に行き、作品にし、これも丹波篠山のコンテストに応募された。編集となれば、徹夜もいとわず、何度も何度も編集を繰り返され、納得のいくまで作品づくりに取り組まれた。それだけに他の人の作品を見る目は厳しく、辛口の批評をされることもあったが、後で言い過ぎたかな…と反省されることがしばしばありました。

人物主体のドキュメンタリーが作品づくりの主でしたが、風景をテーマに、お住まいの近くの嵐山の渡月橋を撮影したい、それも雪の降りしきる冬の景色をと願っておられた。雪が降ったら、その時はと、クルマで同行を約束。しかし今年は雪が降らず、また来年…と約束していましたが、それも叶わなくなりました。年中、腰の痛みに悩まされ、例会出席もままならず、体調は万全ではなかったようですが、ビデオ作品づくりだけが生き甲斐と常々話しておられ、並々ならぬ情熱をお持ちだっただけに、この度の急逝は惜しまれるとともに、残念でなりません。ご冥福をお祈り申し上げます。



中村幸子さんを悼む

宮崎紀代子



今年6月、日本アマチュア映像作家連盟大阪大会に参加した時の笑顔の幸子さんです。

10月6日に行われた OMC 映像フェスティバルでは受付で来客の皆様をお迎えしていました。それから僅か3週間足らずで幸子さんの訃報の知らせを受けるとは、今でも信じられない気持ちでいます。

私と同年代の幸子さんは実直で裏表のない一本気な性格は優しく、ビデオ作品にも個性が現れていてその探求心と根気強さに持ち前の技量だけではない凄い努力をされている事に会話の中でも気づかされ惹かれてゆきました。

OMC には彗星のごとく入会された様に記憶しています。今日迄大活躍中の幸子さんご本人の訃報は、さぞ無念であった事と察せずにはおれません。

ビデオの仲間として又親友として楽しいお話が出来有難うございました。

合掌

第28回大阪マチュア映像祭 秋晴れに恵まれ盛会裡に無事終了

前日は新幹線が止まるほど各地で大雨でしたが、翌11月3日の日曜日は、朝から天気恵まれ、むしろ暑い位の陽気の日となりました。大阪アマチュア映像祭は、回を重ねて28回を迎え、大阪市立中央図書館様の変わらぬご支援の下、毎回大勢の観客を集めて開催しております。

もっともコロナ以前は200名からの来場者がありました。コロナの年は入場制限で入場希望者を抽選で選ぶ等の制約で、観客がぐっと減った、という経歴があり、そのせいと来場者の高齢化もあって、元の様に観客数が望めないのが現実です。しかし、この28回では100名を超す来場者がありほっとしました。もっとも11月3日のこの日は、各地で文化祭やら体育祭、作品展等の行事も多く、そちらへ行かれた元々の来場者がかなりおられたのも事実です。開催日の設定は難しいですが、この映像祭は、大阪市立中央図書館様の「図書館まつり」の一行事と位置付けられていますので、その意向を尊重しなければいけない、という事情もあります。何はともあれ、内容も含めてまずまずの盛会に乾杯。



10月例会レポート

先月の例会は、まだ残暑が残っていたが、さすがに10月例会日ともなると、秋らしい季節となった。だが例会日は、しとしとと降る雨だった。

会場は行事の都合で第4土曜日が使えなかったので一週間前倒しの例会となった。そのせいか欠席者が多く、先月より3名少ない12名に留まった。

しかし作品は複数出品者もいて10本が出品され、充実した例会となった。

- **運営担当**：司会 本来なら植村さんだったが、ご欠席なので代わりに岡本氏が代役、書記 合原、YouTube 関係 江村、映写 江村、山本、メモリー記録 中川、受付・照明 宮崎、森下の各氏
- **出席者**：岩井、江村、岡本、大久保、合原、高瀬、高田、中川、道下、宮崎、森下、山本の12氏、(生田氏は作品のみでご欠席)
- **上映作品** (今月の講評は合原会長)

1. 葛城古道 神々の原風景と彼岸花 道下敏行 5分56秒 BD

(作者コメント)

葛城古道に彼岸花を撮影しに行く 周辺の神社仏閣も入れ、神々の原風景と彼岸花と題した。今年は彼岸花は咲くのが遅れたが咲いている期間がいつもより長かった。



(会長コメント)

今年は秋が無いと思っていたが、この作品は秋がいっぱい、画面に溢れていました。作者はユーチューブに載せるのを意識して撮っておられるようで、現代風の作風は勉強になる。あえてエンドマークを入れなくて、フェードアウトで暗くなっていく、このやり方はネット上では当たり前ですが、例会や発表会の時、映写係や照明係は、いつ上映のストップをかけたらいいか、迷ってしまい、或いは照明係が、場内をいつ明るくしたらよいか、戸惑うのも判る、そこで皆さんに見せる場合の事を考えて、画面下に小さく「END」とか「終」を3~4秒入れたらどうだろうか、もちろんユーチューブに投稿する時は入れなくて良いと思うが。

2. フランス美しきピレーネ山脈ハイキング 高田幸夫 10分20秒 USB

(作者コメント)

日本が梅雨真最中の時、日本を脱出して、フランスとスペインの間にあるピレーネ山脈に出かけた。ピレーネ山脈のハイキングは高山植物の花や壮大な溪谷、滝があり感動の連続であった。



(会長コメント)

今秋ご夫婦で欧州の山歩きハイキングを楽しんでこられたという記録。こういう海外物は元気なときだから出来るので、貴重な「わが家の記録」にもなる。私も妻がまだ病気持ちではあったが、元気を出して会社定年後の楽しみに、毎年海外旅行をして10年位続いたが、妻がダウンして入退院生活、そして亡くなったあと、たくさんの海外旅行の作品を見ることで当時を思い

出している。

さて、この作品スマホで撮影された由。ところどころズームアップ(少しだが)の画面も有り安定した撮影ぶりは流石である。ピレーネ山脈の素晴らしい景観に思わず惹きこまれるものがあった。ご満足の旅であったに違いない。

3. 十三街道 江村一郎 8分10秒 BD

(作者コメント)

俊徳街道「俊徳丸伝説を追う」の続きとなる十三街道。

東大阪市足代付近で暗越奈良街道と別れて南下し、三ノ瀬付近で俊徳街道に合流する。俊徳道駅付近を通り、若江南で河内街道と合流、八尾市幸町で河内街道と分かれ、心合寺山古墳の北側、神立地区を経て、十三峠を越え生駒群平群町を經由して竜田へ。作品では平群駅前の「へぐり時代祭」を挿入して、ラストは以前に撮った柏原市のトンネルプロジェクションマッピングと龍田大社を合わせた。

(会長コメント)

十三街道を歩かれて、色々なカットを撮影、その丁寧さは流石江村さんならではの物がある。しかし、ノンナレなので、この街道の歴史的意義や特徴、或いはお祭りがあるので、その説明などが欲しいところ。又「十三」の読み方について題名にふりがなを付けてもらわないと知らない人は「じゅうそう」と大阪の地名を読む人がいても不思議ではない。



4. オーストラリア最北部の旅 合原一夫 9分58秒 DVD

(作者・会長コメント)

夫婦で初めて海外旅行した時の記念すべき作品、オーストラリア最北部は自然豊かな、そして古代遺跡ある地であった。今から30年前の1994年(平成6年)Hi-8カメラで撮ったものだが、思ったより色あせて無くほっとしたが現在のハイビジョンに比べれば、やはり画質は悪い。



5. 駿馬疾走 高瀬辰雄 6分20秒 BD

(作者コメント)

馬が駆ける。5つの祭をつなぎまとめてみました。上賀茂の競べ馬、藤森神社の駆け馬、愛知県のおまん和祭、七川祭りの流鏝馬、多度大社の上げ馬の5つ。タイトルは円山公園で行われたイベントでの3Dマッピングの映像です。



(会長コメント)

迫力充分の映像、今では撮れない貴重なカットがあった。いずれも懐かしの映像でやりたい。

6. 好きにならずにいられない 生田幸靖 3分16秒 USB

(作者コメント)

京都嵯峨野で出会った美女と愛宕念仏寺の羅漢さんを対比した構成にしてみました。

(会長コメント)



作者は欠席で作品とコメントを寄せられたもの。撮影会かグループで出演を依頼されたのか、或いは作者個人で呼ばれたのか、着物姿の若い女性をモデルにして、嵯峨野あたりを散策してもらい、ムードたっぷりの作品に仕上げられたもの。楽しく拝見。

7. グリーングラン大阪 うめきた公園 中川良三 12分06秒 USB

(作者コメント)

9月6日大阪駅北側に駅に直結する都市型公園としては、世界最大規模の大きな再開発の目玉ともなる場所を見てきた、まだ完成はしていないがどのような雰囲気かを映像としてまとめてみた。



(会長コメント)

最近できた「うめきた」には行ったことはなく、この作品で大体の様子が分かった。丁寧に撮られているので理解しやすい。この意味で感謝！

8. 柳生街道 山本正夢 10分00秒 BD

(作者コメント)

彼岸花を撮影しに柳生まで行ってきましたが、あまり印象が残らず残念でした。



(会長コメント)

上り下りの多い柳生街道の道々にある多種多様の遺跡や風景を細かく撮影されていて、そのため歩かれた健脚ぶりと、適格な撮影ぶりには驚く。昔、柳生街道は人の行き来で賑わったであろうことを、ラストシーンあたりで、テロップでもいいから語ってもらったら見終わった後の印象が深まるかも。

9. 生駒山暗峠の月 仲秋の名月 道下敏行 2分17秒 BD

(作者コメント)

2024年は9月17日が仲秋の名月で天気も悪くなく、暗峠に撮影に行く人が誰も居らず暗闇から出てきた猫と朧月が印象的だった。



(会長コメント)

坂道のきつい暗峠へ、仲秋の名月を撮りに行かれた努力にまず敬意。おかげで改めて仲秋の月を鑑賞できた。

10. 鯉まつり 高瀬辰雄 9分00秒 BD

(作者コメント)

愛知県知多半島豊浜の鯛祭り。20数年前、DVで撮影した作品で、今回、再編集しました。鯉の作り物が登場する祭りで、その大きさに驚かされました。海から揚った鯉が4匹、町を練り歩き、競って神社に突っ込むのですが、どういう意味を持つのかわかりません。

(会長コメント)

こういう祭りもあるのか、と初めて知った貴重な映像。

